



学校だより

10月号(第514号)
平成30年9月28日
横浜市立すみれが丘小学校

学校教育目標

〈 みんな友だち すすんで学ぶ元気な子 〉

豊かな人間関係の中で、自分らしさを大切にして主体的に学ぶことができますようにします。

人とのかかわりを通して自分の生き方を創り上げていくすみれっ子

校長 吉田 茂樹

学校では、朝の登校時に東・西の各昇降口で子どもたちの「おはようございます」の元気な声が飛び交っています。児童会が中心となって計画したあいさつ運動で、ペア学年のグループで交代しながら、夏休み明けから続けています。そこでは、上級生が見本を見せて下級生をリードする姿が見られます。今後も友達や教職員はもちろんですが、PTAやボランティア、地域でお世話になっている方々にも自然に自分から進んで挨拶ができるようになってほしいと願っています。



〈朝のあいさつ運動〉

さて、先日、2年生の遠足の引率で、よこはま動物園ズーラシアに行ってきました。今回は、象の飼育舎（バックヤード）を見学することができました。象のえさの倉庫には、いろいろな種類の大量のえさが整理して置かれていました。1頭当たり1日70～80kgの葉や枝を食べるそうです。野生の象だと200kgも食べるとのことで驚きです。象は、枝も食べるので葉っぱしか食べない動物の残りの枝もリサイクルして象のえさにして



〈象の飼育舎内〉

いるそうです。寝場所は、とても広々とした空間で飼育員や見学者は、たくさんある大きな柱と柱の間のすき間から出入りするのもおもしろかったです。

とても興味深い見学でしたが、一番印象深かったことは、飼育員の方々の担当している動物に対する愛情の深さでした。毎日大量の餌を用意したり、排泄物から健康状態をチェックしたり、体を洗ったり……。象は、とても繊細な動物だそうで、人間に対しても警戒心が強い

そうです。長い年月に渡る世話の積み重ねで飼育員との信頼関係ができ、象も人に対して危険なことをせず、安心して接することができるそうです。飼育員の方の話から、命を預かる責任の重さや仕事の工夫、動物の成長、信頼関係ができたときのやりがいやひしひしと伝わってきました。子どもたちもとても熱心に見聞したり、質問したりして多くのことを学んでいました。2年生の子どもたちにとっても職業観、生き方を育てるキャリア教育につながることだと感じた時間でした。

秋風が爽やかな季節になってきました。朝夕は、肌寒い日も多くなり、子どもたちも風邪など体調を崩しがちです。衣服の調節や手洗い、うがいなど健康に気を付けながら、芸術、スポーツ、読書などそれぞれの秋を楽しんでほしいと思います。